

かみのやま 歴史・文化財さんぽ

第38号（令和3年8月）

あゆむ「武家屋敷の2回目だね。」
ミドリ「4軒あったうちの次の2軒ね。」
ふみお「山田家には、山田さんが住んでいらっし
ゃると聞いたので、旧曾我部家に行くよ。」
あゆむ「説明板がある。」
ミドリ「しっかり見てから入りましょう。」
ふみお「えーと、“上山における曾我部家の初代は
宗八と称し、宝永5年(1758)藤井松平氏
7代信通の家臣となり、宗旨奉行や馬廻
役を勤め、家禄50石、後に100石を給
された。”とある。」
あゆむ「信通という人は、殿様のことだよな？」
ミドリ「そうね。宗旨奉行というのは？」
文じい「神社や寺に関わる仕事や、人々がどの寺
の信者かというようなことを確認するよ
うな仕事をしていたようじゃ。」



ミドリ「“馬廻役” というのは？」
文じい「馬廻というのは、大将の乗っている馬の
廻りのお世話、つまり、殿様のそばにいて、
護ったり連絡などをしたりする護衛や秘
書のような役目じゃな。」
あゆむ「へえ、じゃあえらいんだね。それで、
50石とか100石というのは？」
文じい「家禄といって、家に代々支給される俸禄、
つまり給料じゃな。」

ぶ け や し き
武家屋敷

や ま だ け

山田家

き ゆ う そ が べ け

旧曾我部家

ふみお「1石というのは10斗。1斗は10升。
1升は10合だね。それで、大人1人が
1食で食べる米はおよそ1合くらい？」
ミドリ「そう考えると1日3食とすると
それが365日で、1095合。」
ふみお「およそ1000合と考えれば、
100升で、それは、10斗、
そして、それは、1石のことだ。」
あゆむ「1人が1年で食べる米は1石か。」
ミドリ「あら、それじゃあ、100石とい
うのは100人分ということ？
すごいわね！」
文じい「いやいやそうではない。実際は、
百姓からの年貢、つまり、税金と
して入ってくるのは四公六民で、
四公（4割）の40石じゃ。」
ふみお「うーん。そうすると、家族が食べる分と、
それに米以外の食べ物や、そのほかにも
いろいろお金がかかるわけだから。」
ミドリ「そうね。それじゃあ、どんなくらしだっ
たのかしら？」
文じい「禄高100石の家は、中間といって、日
ごろは家の仕事をやって、いざというど
きには戦にも出るようにしている家来を

2人雇っておかなければならなかった。」

ミドリ「家来の分の費用もあるわけね。」

あゆむ「給料をお米でもらえば、ほかのものに使うお金はどうするのかな？」

ふみお「米を売ってお金に換えただよね。」

文じい「ふむ。家族や家来を養い、その他、行軍や仕事、お付き合いの出費も多い。それに、物価、つまり、品物の値段が上がるような時は、くらしは大変になってくる。決してぜいたくなどはできない生活だったようじゃ。」

ミドリ「説明には、徒頭とか大目付などの役目も出てくるけど？」

文じい「徒とは、歩いて殿様のお供をするような下の位の武士。徒頭はその頭、つまり、上に立ってまとめる役目。それに、大目付は役人の監督をする役目。いずれも重要な立場じゃな。」

ふみお「山田家の説明板にも、馬廻役とあったし、惣領席とか、いろんな奉行や者頭などの役目をしていたともあった。」

文じい「者頭とは、足軽という家来たちの頭のことじゃの。」

あゆむ「さあ、そろそろ入ってみようよ。」

ミドリ「そうね。あら、“かみのやま寺子屋”の看板が立っているわ。上山小学校の子どもたちが、放課後に学習や体験活動をしているのよね。今日は、日曜で休みだけど。」

あゆむ「寺子屋というけど、お寺でないよね。」

文じい「昔は寺などで子どもたち、つまり、寺子が学んだことから、そういうところを寺子屋というようになった。」

あゆむ「学習用の机もあるし、おたよりもはってある。“夏休みの特別プログラム”だって。いいなあ。」

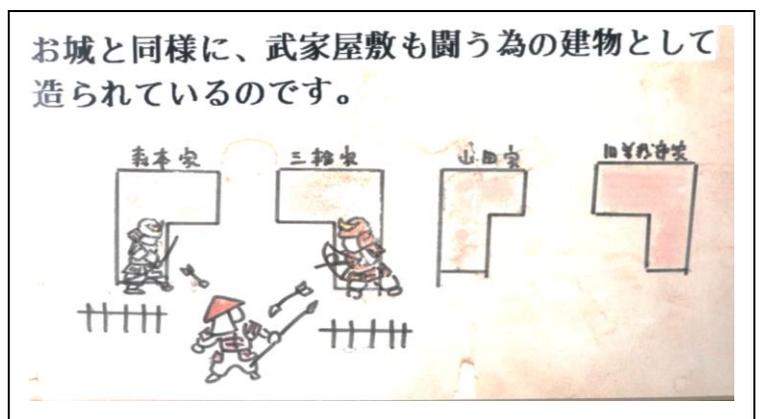
ふみお「“式台”という主人や客用の玄関があるのは、三輪家と同じだ。」

ミドリ「座敷も似ているわね。天井裏に武者隠しというところがあるのも同じだわ。」

ふみお「槍掛場や刀置場などの三輪家で聞いた説明と同じづくりだ。」

あゆむ「刀を振り回せないように天井を低くしているとかも同じかな。」

ミドリ「そうね。そういえば三輪家で見た説明で、“武家屋敷の曲り屋造り”というのがあったわ。メモを見ると、“2軒ずつ向かい合って建てられており、攻めてくる敵を2軒が1組になって、座敷部分から弓や銃で迎え撃ちました。”とあったわ。」



文じい「厠、つまりトイレもじゃが、家の中に、しかも、客用と家族用の2つが設けられておる。敵に囲まれた時のそなえでもある。」

ミドリ「裏には、釣瓶井戸、畑があり、中間の小屋もあったということだったわね。」

ふみお「いざというとき、この屋敷でくらすね。」

あゆむ「すごい守りの家なんだな。やっぱりお城みたいだ。」

ミドリ「藩が設計・建築した官営住宅という意味がわかってきたわ。」

ふみお「そうだね。武士らしいキリっとしたくらしが感じられる武家屋敷だったな。」

ミドリ「このような屋敷が残っていることはすばらしいことね。大切に護っていきたいわ。」